

養育院

日本初となる公立救貧施設

養育院は、1872年10月15日に創設された困窮者の收容保護施設です。事業開始の地は本郷の加賀藩邸跡(現在の東京大学)でしたが、その後、本院は上野、神田、本所、大塚と東京市内(現在の東京都内)を転々とし、1923年に起きた関東大震災後に板橋に移転しました。

養育院の歴史は渋沢栄一を抜きに語れません。東京府知事大久保一翁の働きかけにより、1874年から養育院事業に関わり始めた渋沢栄一は、1879年に初代養育院長となり、その後亡くなるまで、50有余年にわたり養育院長として事業の発展に力を尽くしました。

日本の社会福祉・医療事業に大きな足跡を残した養育院ですが、1999年12月、東京都議会において養育院廃止条例が可決され、約130年にわたる歴史の幕を閉じました。しかしながら、養育院が行ってきた事業はかたちを変えて現在も引き継がれています。

養育院の変遷

会議所附養育院
1872～1876

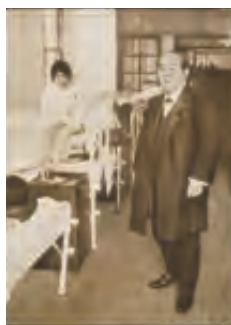
東京府養育院
1876～1885

東京府養育院(委任経営)
1885～1889

東京市養育院
1890～1943

東京都養育院
1943～2000

※東京都の養育院条例廃止により、組織図上「養育院」の名前が消える。事業は都が継承。



病室にて
渋沢史料館所蔵



1948年・養育院



撮影時期不明・戦前・板橋本院前景



1949年・昭和天皇視察



撮影時期不明・戦前・養育院事務所前景



1958年・養育院附属病院



撮影時期不明・戦前・東京市養育院正門
すべて東京都健康長寿医療センター所蔵

東京都養育院附属病院
1947～1972

東京都養育院附属病院
1972～1986

東京都老人医療センター
1986～2009

東京都老人総合研究所
1972～1981

(財)東京都老人総合研究所
1981～2002

(財)東京都高齢者研究・
福祉振興財団東京都
老人総合研究所
2002～2009

(地独)東京都健康長寿医療センター
2009～